

みに達するといわれる。従つて本剤は之をそのまま実用に供することが可能であるが、ただしこの場合において次の1~2の問題につき考慮を払う必要がある。即ち

1. 使用量はPCP-Naと同量(製品量として)或はそれ以上を用うること。

2. 精製されていないので微量の不溶解物が残存するので、動力噴霧器等で撒布しようとする場合においては、これを排除すること。この場合一旦高濃度で溶解し濾過しながら桶に移すか、噴霧器の吸入口に濾過装置を設けるかするとよい。

3. 水田内面等の全面撒布には、そのまま水に溶解ししくやで等出来るだや均等に撒布した後灌水すれば最も効果的である。

4. その他魚族等に対する被害はPCP-Naに比し少いとはいえ相当の危険性が在るので、その取扱はPCP-Naの使用に準ずること。

一方、#2はBHC製産の際副産物であるが、その成分内容は明らかでない。BHCは中共において広く用いられているが(小宮(1957)), 飯島ら(1959)の実験は室内と野外の有効濃度の差が大きく且野外における殺貝効果が比較的不安定であつた。

本剤の場合にもかかる傾向が看取された。

尚#9については詳らかではない。

要 約

1. Pheol系の薬剤の副産物9種類についてミヤイリガイ殺貝効果の検討を室内及び野外試験に依つて試みた。

4. 山梨県有病地の日本住血吸虫皮内反応の実施成績(続報)

大 田 秀 浄 土 屋 庄 渡 辺 照 代

緒 言

日本住血吸虫(以下日住と省略)病の皮内反応による診断については、本県においては昭和33年より抗原の作製をなし、有病地の学童5万人を実施する予定で計画をすすめ、34年度は5457名に実施した。このことについては34年度所報にてすでに報告したが、昨年度に引続き今年度4月より3月までの間に実施した成績について報告する。

実 施 方 法

皮内反応を実施した小学校は、甲府市甲運小学校461名、山城小学校614名、大里小学校364名、千塚小学校337名、池田小学校244名、国母小学校779名、千代田小学校197名、東小学校743名、北新小学校559名、中巨摩郡三村

2. PCP-Naの副産物に顕著な殺貝効果を認めた。その効率はPCP-Naに略匹敵する。而してその有効成分はpentachloro phenol 及び tetrachloro phenol で、更にはこれに賦質的に作用する物質の存在が予想される。

3. 本剤はその性状、産出量からして実用価値が期待出来る。

本研究の一部は昭和35年第29回日本寄生虫学会において発表した。

文 献

1). McMullen, D. B. et al. (1949): A plate method of screening chemicals as molluscicides, *Jour. Parasit.*, 35, 28.

2). McMullen, D. B. et al. (1951): The use of molluscicides in the control of *Oncomelania nosophora* an intermediate host of *Schistosoma japonicum*, *Amer. Jour. Trop. Med.*, 31, 593-604.

3). Hunter, G. W. III. et al. (1952): Potential molluscicides screened in the laboratory and the results of preliminary field plot tests, *Jour. Parasit.*, 38, 6.

4). 小宮義孝(1957): 中共の住血吸虫病防治対策に対する意見書, *日新医事新報*, 1711, 45~49.

5). 飯島利彦 他(1959): 宮入貝の殺貝に関する研究(4) 各種農薬の宮入貝殺貝効果試験, *山梨医研所報*, 2, 42~43.

小学校424名、藤田小学校211名、鏡中条小学校377名、西野小学校339名、在家塚小学校245名、吉沢小学校148名、敷島小学校829名、北巨摩郡双葉西小学校412名、双葉東小学校299名、藤井小学校493名、大草小学校269名、甘利小学校320名、西八代郡大塚小学校224名、上野小学校232名、東八代郡石和南小学校698名、石和北小学校191名、山梨市日川小学校372名、計10441名であつた。

中学校は、甲府市山城中学校309名、千代田中学校87名、山梨大学附属中学校487名、南中学校1724名、南西中学校405名、中巨摩郡峡中中学校337名、竜王中学校572名、吉沢中学校53名、八田中学校429名、北巨摩郡双葉中学校367名、甘利中学校420名、西八代郡大塚中学校107名、上野中学校141名、東八代郡石和中学校736名、計6174名であつた。

高等学校は県立農林高校876名。

一般成人は中巨摩郡玉穂村666名，東八代郡御坂町八千歳部落201名，対象として無病地の塩山市奥野田部落113名，計980名であった。

日住の抗原は昨年と同様に，米軍406医学研究所と本所と共同作製した抗原を使用した。被験者の前膊内側に抗原と対象液を各0.01cc皮内注射し，その部に生ずる丘疹の面積を，15分～30分後に測定した。

測定には，平方耗の面積を規定した測定板を使用した。

判定は，対象の面積の2倍以上を陽性，2倍を疑陽性

それ以下を陰性とした。

陽性，疑陽性者に対しては，接種后1週間以内にMIFC変法により実施した。更に正確を期するため，当所において実施した一部を米軍406医学研究所においてMGL法により実施した。

皮内反応実施成績

被験者の対象別による実施成績は，1表の通りである。又各対象の陽性，疑陽性，陰性の比率を图示すると，1. 2図の通りである。各集団別の陽性，疑陽性，陰性及び男女の割合は，2表の通りである。

1表 皮内反応各対象別実施成績

市郡	対象	接種者	皮内反応 (+)	%	皮内反応 (±)	%	皮内反応 (-)	%
甲府	甲 運	461	15	3.25	57	12.37	389	84.38
	山 城	614	59	9.61	35	5.71	520	84.68
	大 里	364	42	11.54	33	9.07	289	79.39
	千 塚	337	21	6.23	17	5.05	299	88.72
	池 田	244	6	2.46	5	2.05	233	95.49
	国 母	779	28	3.59	25	3.21	726	93.20
	千代田	197	8	4.06	8	4.06	181	91.88
	東	743	3	0.41	7	0.94	733	98.65
	北 新	559	24	4.29	23	4.12	512	91.59
	中巨摩	三 村	424	69	16.28	26	6.13	329
藤 田		211	8	3.79	4	1.90	199	94.31
鏡中条		377	53	14.06	13	3.45	311	82.49
西 野		399	54	13.53	14	3.51	331	82.96
在家塚		245	3	1.21	5	2.05	237	96.74
吉 沢		148	10	6.76	13	8.78	125	84.46
敷 島		829	21	2.53	26	3.14	782	94.33
北巨摩	双葉西	412	86	20.88	16	3.88	310	75.24
	双葉東	299	57	19.06	19	6.35	223	74.58
	藤 井	493	14	2.84	8	1.63	471	95.55
	大 草	269	56	20.82	22	8.18	191	71.00
	甘 利	320	32	10.00	29	9.06	259	80.94
西八代	大 塚	224	12	5.36	8	3.57	204	91.07
	上 野	232	13	5.61	14	6.03	205	88.36
東八代	石和南	698	36	5.16	41	5.87	621	88.97
	石和北	191	4	2.09	8	4.19	179	93.72
山 梨	日 川	372	5	1.34	5	1.34	362	97.32
	計	10441	739	7.08	481	4.61	9221	88.31

中 学 校

市郡	对象	接種者	皮内反応 (+)	%	皮内反応 (±)	%	皮内反応 (-)	%
甲府	山城	309	67	21.68	37	11.98	205	66.34
	千代田	87	4	4.60	4	4.60	79	90.80
	梨大 附属	487	29	5.95	19	3.90	439	90.15
	南	1724	89	5.16	59	3.42	1576	91.42
	南西	405	24	5.93	19	4.69	362	89.38
中巨摩	峡中	337	114	33.83	21	6.23	202	59.94
	竜王	572	220	38.46	40	6.99	312	54.55
	吉沢	53	11	20.76	3	5.66	39	73.58
	八田	429	161	37.53	13	3.03	255	59.44
北巨摩	甘利	420	122	29.04	60	14.29	238	56.67
	双葉	367	143	38.97	13	3.54	211	57.49
西八代	大塚	107	23	21.49	4	3.74	80	74.77
	上野	141	10	7.09	2	1.42	129	91.49
東八代	石和	736	23	3.13	16	2.17	697	94.70
	計	6174	1040	16.85	310	5.02	4824	78.13

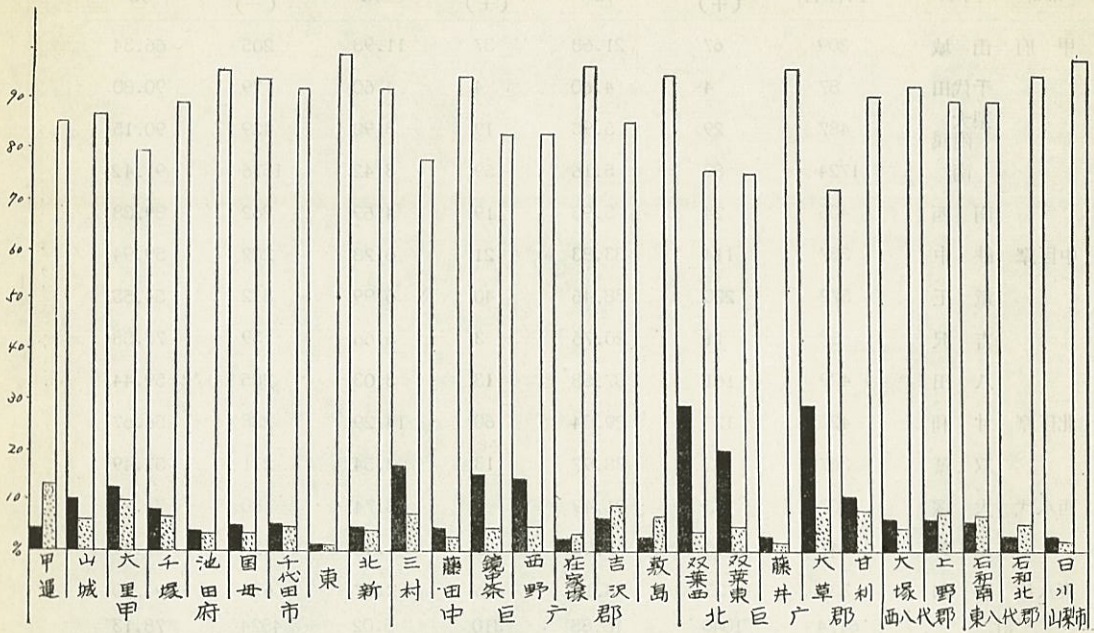
高 等 学 校

農	林	876	393	44.86	27	3.08	456	52.06
一 般 成 人								
玉	穂	666	617	92.64	9	1.35	40	6.01
八	千 蔵	201	66	32.84	11	5.47	124	61.69
	計	867	683	78.78	20	2.31	164	18.91
塩山(無病地)		113	1	0.89	1	0.89	111	98.23
成人	計	980	684	69.80	21	2.14	275	28.06

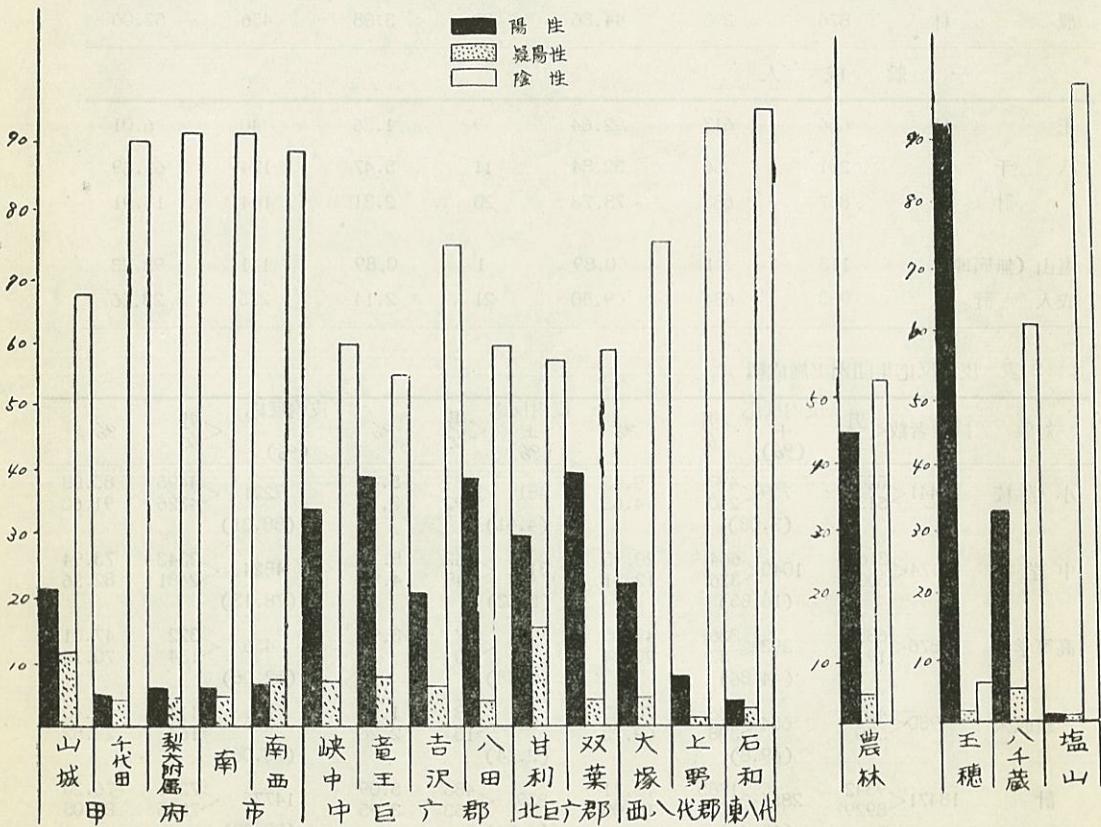
2 表 皮内反応集団別実施成績

对象	接種者数 男女	皮内反応 + (%)	男女	%	皮内反応 ± (%)	男女	%	皮内反応 - (%)	男女	%
小学校	10441 5283 5158	739 499 240	(7.08)	9.45 4.65	481 289 192	(4.61)	5.47 3.72	9221 (88.31)	4495 4726	85.08 91.63
中学校	6174 3169 3005	1040 664 376	(16.85)	20.95 12.51	310 162 148	(5.02)	5.11 4.93	4824 (78.13)	2343 2481	73.94 82.56
高等学校	876 685 191	393 336 57	(44.86)	49.05 29.84	27 27 0	(3.08)	3.94	456 (52.06)	322 134	47.01 70.16
一般成人	980 405 575	684 286 398	(69.8)	70.62 69.22	21 8 13	(2.14)	1.98 2.26	275 (28.06)	111 164	27.40 28.52
計	18471 9542 8929	2856 1785 1071	(15.46)	18.71 12.00	839 486 353	(4.54)	5.09 3.95	14776 (80.00)	7271 7505	76.20 84.05

1 図 皮内反応，+，±，- の比較（小学校）



2 図 皮内反応，+，±，- の比較（中学，高校，一般成人）



小学校学童の接種者1044名中陽性739名(7.08%)、疑陽性481名(4.61%)、陰性9221名(88.31%)。

中学校生徒の接種者6174名中陽性1040名(16.85%)、疑陽性310名(5.02%)、陰性4824名(78.12%)。

高等学校生徒の接種者867名中陽性393名(44.86%)、疑陽性27名(3.08%)、陰性456名(52.06%)。

一般成人の接種者980名中陽性684名(69.80%)、疑陽性21名(2.14%)、陰性275名(28.06%)。

男女別では、小学校学童陽性者739名中男499名、女240名で、接種者に対する比率は、男4.95%、女4.65%である。

中学校生徒の陽性者1040名中男664名、女376名で、接種者に対する比率は、男20.95%、女12.5%である。高等学校生徒の陽性者393名中男336名、女57名、接種者との比率は、男49.05%、女9.84%である。一般人の陽性者684名中男286名、女398名、接種者に対する比率は、男70.62%、女69.22%であった。

皮内反応陽性者及び疑陽性者に対する検便成績

皮内反応陽性者及び疑陽性者に対しては、上記による集卵法を実施したが、その結果は3表の通りである。

3表 検便成績

小学校	皮内反 応+ 提出数	日住 (%)	蛔虫	鞭虫	鈎虫	東毛	無卵	皮内反 応+ 提出数	日住	蛔虫	鞭虫	鈎虫	東毛	無卵
甲 運塚	13			11		3	2	54		9	39	2	1	9
大 上野	6		1	5										
三 野村	13		3	9	6	3	3	14		1	12	3	2	1
石 和南	46		4	41	2		5	25		3	21	1		2
大 里	35		2	30	1		2	35		4	29	1	1	5
千 塚	29		1	25	2	1	3	20		2	17			3
藤 田	16		3	13			2	14			7			7
池 田	7			5			1	4			3			1
吉 沢	6			5			1	4			2			2
日 川	9	1 (11.11)		6	1		3							
国 母	5			5	1			5		2	5			
在 家塚	7	1 (14.29)	1	5			1	5			5			
鏡 中条	3			3				3		1	3			
敷 島	46	8 (17.40)	1	32	1		14	10			6			4
千 代田	7			7				14			13			2
双 葉東	6		3	6				7		2	5			2
北 新利	48	12 (25.00)		36	1		10	13		1	7			5
甘 計	24			19	1		5	23			23			
	32	1 (3.13)	2	25	16		8	29		2	24	2		4
計	358	23 (6.42)	21	288	32	7	60	279	0	27	221	9	4	46
中学校														
峡 中	103	8 (7.77)	14	92	12	3	9	20		1	16			4
甘 利	114	12 (11.53)	11	101	1	2	12	55		3	44	1		5
大 塚	15	1 (6.67)	1	13		1		4			2			2
上 野	10	1 (10.00)	2	8	1	3		2			1	1		
竜 王	74	3 (4.05)	1	59	5	1	14	16		1	16	1		
吉 沢	10	1 (10.00)	3	9			1	2		1	2			
梨大附属	12			10			2	10		1	10			
甲 府南	37	6 (16.22)	1	35	1	1	6	23			22			1
千 代田	3		1	3				4		2	4	1		
双 葉	119	10 (8.4)	7	84	5		25	12	1 (8.33)	2	9			3
八 田	150	32 (21.33)		119	2		25	12		2	10	1		
計	647	74 (11.44)	41	533	27	11	94	160	1 (0.63)	13	136	4	1	15
高校														
農 林	309	32 (10.36)	16	197	20	3	85	20			16			4
成人														
玉穂村	231	12 (5.15)	19	213	27	2	14	8		1	8	1		1
総 計	1545	141 (9.13)	110	1231	106	23	247	467	1	41	381	14	5	62
			7.12	79.68	6.86	1.49	15.99		0.21	8.78	81.58	3.0	1.07	13.28
			%	%	%	%	%		%	%	%	%	%	%

小学校学童については、皮内反応陽性の提出者358名中日住卵保有者23名(6.42%)、中学校生徒の皮内反応陽性の提出者647名中日住卵保有者74名(11.44%)、高等学校生徒の皮内反応陽性の提出者309名中日住卵保有者32名(10.36%)、成人の皮内反応陽性者231名中日住卵保有者12名(5.15%)であつた。

皮内反応疑陽性者の検便では、中学校生徒160名中日住卵保有者1名(0.63%)あり、小学校学童279名、高等学校生徒4名、成人8名については、日住卵保有者は検出されなかつた。

皮内反応陰性者についても、峡中中学236名、甘利中学150名、(以上集卵法)、双葉中学172名(塗抹法)について同様に検査したが、日住卵は検出されなかつた。

問診によるいわゆる日本住血吸虫既往者の皮内反応、及び検便との関係

日住既往者は皮内反応実施の際、又はその後、養護教諭、担任の教師、あるいは学級の保健委員等によつて「地方病にかかつてことがあるか」という問に対する答によつたものである。

各対象における既往者数、及び接種者との比率、あるいは既往者の皮内反応結果、検便との関係は4表の通りである。

即ち、小学校6校1817名、中学校5校3397名、高校1校876名、一般成人御坂町201名について調べた。

小学生33名(1.82%)、中学生84名(2.47%)、高校169名(19.29%)、成人2名(1.0%)の既往者があつた。

これ等の288名の皮内反応の結果は、陽性218名(75.70%)、疑陽性8名(2.77%)、陰性62名(21.53%)であつた。この陽性者の検便では173名中29名(10.98%)から日住卵が検出された。

農林高校における既往者169名については、皮内反応陽性39名(82.25%)、疑陽性3名(1.78%)、陰性27名(15.98%)であつた。更に陽性者の139名中102名について検便したところ、日住卵陽性13名(12.75%)であつた。治療を受けたと称する者136名、うち、1回治療を受けた者96名、最高6回治療を受けた者1名あり、平均1.5回であつた。治療を受けたと称する者のうち皮内反応陰性の者が14名あつた。

4表 皮内反応と既往者との関係

小学校	接種者	既往者	(%)	皮内反応			検便	日住卵	(%)
				+	±	-			
甘利	320	8	(2.5)	5		3	5		
双葉東	299	5	(1.67)	4	1		4		
鏡中条	377	7	(1.86)	7			5	3	(60.0)
三村	429	9	(2.12)	5	2	2	5		
池田	244	3	(1.23)			3			
吉沢	148	1	(0.68)			1			
計	1817	33	(1.82)	21 (63.64)	3 (9.09)	9 (27.27)	19	3	(15.79)
中学校									
八田	429	44	(10.26)	35	1	8	32	7	(21.88)
峡中	337	35	(10.39)	19	1	15	17	3	(17.65)
甘利	420	3	(0.71)	3			3	3	(100.0)
梨大附属	487	1	(0.21)			1			
南	1724	1	(0.06)			1			
計	3397	84	(2.47)	57 (67.86)	2 (2.38)	25 (29.76)	52	13	(25.0)
高校									
農林	876	169	(19.29)	139 (82.25)	3 (1.78)	27 (15.97)	102	13	(12.75)
成人									
八千蔵	201	2	(1.00)	1 (50.0)	1 (50.0)				
総計	6291	288	(4.58)	218 (75.70)	8 (2.77)	62 (21.53)	173	29	(16.76)

県立農林高等学校における皮内反応、及び
検便の結果について

及び居住地区との関係について、分布状態を見ると5表
6表の通りであつた。

農林高校における皮内反応及び検便の結果を、各科別

5表 農林高校皮内反応及び日住卵保有者の各科別分布

科別	接種者	皮内反応 +	%	皮内反応 ±	%	皮内反応 -	%	検便数	日住卵 +	%
農業	113	59	52.21	3	2.66	51	45.11	51	4	7.84
農畜	107	51	47.66	5	4.68	51	47.66	42	4	9.76
林業	111	46	41.44	3	2.70	62	55.86	40	5	12.50
畜産	107	72	67.29	2	1.87	33	30.84	41	3	7.32
園芸	121	49	40.50	8	6.61	64	52.89	43	3	6.98
土木	96	43	44.79	3	3.13	50	52.07	28	6	21.43
家庭(女)	191	57	29.84			134	70.16	53	5	9.43
定時制	23	13	56.52	3	13.04	7	30.44	9	2	22.22
専攻科	7	3	42.86			4	57.14	2		
計	876	393	44.86	27	3.08	456	52.06	309	32	10.36

6表 農林高校の皮内反応及び日住卵保有者の地区別分布

住 所	接種者	皮内反応 +	%	皮内反応 ±	%	皮内反応 -	%	日住卵 +	%
有 病 地									
甲 府 市	116	52	44.82	2	1.73	62	53.45	1	0.86
韭 崎 市	48	23	47.92	3	6.25	22	45.83	3	6.25
北巨摩郡双葉町	46	39	84.78	2	4.35	5	10.87	3	6.52
中巨摩郡白根町	103	33	32.04	5	4.85	65	63.11	2	1.94
榑形町	96	14	14.58	3	3.13	79	82.29	0	
竜王町	67	50	74.63	0		17	25.37	6	8.96
甲西町	58	21	36.21	1	1.72	36	62.07	2	3.45
若草町	58	27	46.55	1	1.72	30	51.72	3	5.17
敷島町	41	18	43.90	2	4.88	21	51.22	1	4.17
昭和村	40	29	72.50	0		11	27.50	2	5.00
田富村	24	17	70.83	1	4.17	6	25.00	1	4.17
八田村	25	23	92.00	0		2	8.00	5	20.00
玉穂村	23	19	82.61	1	4.35	3	13.43	2	8.70
東八代郡中道町	20	7	35.00	1	5.00	12	60.00	0	
豊富村	19	7	36.84	3	15.79	9	47.37	0	
境川村	3	0		0		3	100.00	0	
石和町	1	0		1	100.00	0		0	
西八代郡三珠町	15	2	13.33	1	6.67	12	80.00	0	
市川大門町	3	0		0		3	100.00	0	
宿 舎	25	4	16.00	0		21	84.00	1	4.00
無 病 地									
中巨摩郡増穂町	23	4	17.39	0		19	82.61	0	
南巨摩郡鯉沢町	2	1	50.00	0		1	50.00	0	
西八代郡下部町	1	0		0		1	100.00	0	
芦川村	1	0		0		1	100.00	0	
北巨摩郡須玉町	1	0		0		1	100.00	0	
高根村	1	0		0		1	100.00	0	
その他の無病地	8	0		0		8	100.00	0	
住所記入なきもの	8	3	37.50			5	62.50	0	
計	876	393	44.86	27	3.08	456	52.06	32	3.65

農林高校は、いわゆる実業学校で農業、農蚕、林業、畜産、園芸、土木の6科と、女子の家庭科、他に定時制と専攻科に分れている。敷地は、有病地区内にあつて、実習場内にも多数の宮入貝が棲息しているが、感染貝は見られない。特に農業関係に限らず、日住卵の保有者も大体各科に見られた。

各生徒について、居住地区別に分布を調べると全生徒876名中有病地区内に居住する者806名(92.01%)、宿舎内に居住する者25名(2.86%)、無病地に居住する者37名(4.22%)、その他8名(0.91%)であつた。生徒の家庭は主に農家で、殊に有病地区内では、学習の余暇等にも相当手伝つているものと推測される。このことは彼等

の出身学校であるところの竜王、八田、双葉、峡中等周辺の中学校の皮内反応、あるいは検便の結果等からも容易に推測される。宿舎内の1名の日住卵保有者については、入学前の居住地が無病地であつたので、過去における感染の機会等につき調査中である。他の無病地の皮内反応陽性者についても、同様に調査中である。なお、日住卵保有のうち、虫卵数1個~3個検出され者は28名、4個~6個検出された者は3名、52個発見された者1名、平均3.4個であつた。八田中学校及び双葉中学校における居住地区の分布を参考に添えたと7表、8表の通りである。

7表 八田中学校生徒の皮内反応及び日住卵保有者の部落別分布

部落	接種者	皮内反応 +	%	皮内反応 ±	%	皮内反応 -	%	日住卵+	%
上高砂	39	22	56.41	1	2.56	16	41.03	5	12.82
下高砂	50	26	52.0	1	2.0	23	46.0	7	14.00
徳永	39	24	61.54	3	7.69	12	30.77	5	12.82
六科	57	27	47.37	3	5.26	27	47.37	7	12.28
野牛島	68	42	61.76			26	38.24	5	7.35
榎原	29	8	27.59			21	72.41	2	7.21
上八田	69	2	2.9	1	1.45	66	95.65	0	0
百々	78	11	14.1	3	3.85	64	82.05	1	1.28
計	429	162	37.76	12	2.8	255	59.44	32	7.46

8表 双葉中学校生徒の皮内反応及び日住卵保有者の部落別分布

部落	接種者	皮内反応 +	%	皮内反応 ±	%	皮内反応 -	%	日住卵+	%
駅前	7	1	14.29	1	14.29	5	71.42		
堅町	16	2	12.50	1	6.25	13	81.25		
仲町	3			1	33.33	2	66.67		
上町	2	1	50.00			1	50.00		
横町	5	4	80.00			1	20.00	2	40.00
新田	8	2	25.00			6	75.00		
竜地	26	7	26.93	3	11.54	16	61.53		
下今井	43	16	37.21	1	2.33	26	60.46		
上今井	2					2	100.00		
滝沢	20	6	30.00			14	70.00		
しようぶ沢	22	12	54.55			10	45.45	3	13.66
笠石	5	2	40.00	1	20.0	2	40.00	1	20.00
田畑	13	9	69.23			4	30.77		
駒沢	13	6	46.15			7	53.85		
宇津谷	19	5	26.32			14	73.68	1	5.79
団子	26	6	23.07	1	3.85	19	73.08		
大屋敷	4	1	25.00			3	75.00		

上志田	27	12	44.44			15	55.56		
米沢	9	5	55.56	1	11.11	3	33.33		
仲宿	18	5	27.78			13	72.22		
大埜	22	10	45.45	1	4.55	11	50.00	1	4.54
塩崎	4	2	50.00			2	50.00	1	25.00
山本	5	3	60.00			2	40.00		
竜坂	11	7	63.64	1	9.09	3	27.27		
金剛寺	20	12	60.00	1	5.00	7	35.00	2	10.00
岩森	6	2	33.33			4	66.67		
金北	2	2	100.00						
宇北	2	2	100.00						
敷島	1	1	100.00						
計	361	143	39.61	13	3.6	205	56.79	11	3.05

考 察

33年, 34年度に実施した日住皮内反応の結果については、既に報告したが、35年度は更に18471名に実施した。年令からみた皮内反応陽性者の関係は、小学校学童から中学生に、更に高校生から成人へと、年令の増加と共に陽性率は高率である。性別では、いづれの集団でも、男子の方が女子よりも陽性率は高率である。又地域的には宮入員が多数棲息していると思はれる地区に、陽性率は高率である。これらのことは前年度の報告と、ほぼ同様の傾向にある。

塩山市の奥野田部落の成人については、機会があつたので対象として実施したが、接種者113名中陽性者男1名、疑陽性者女1名であつた。この陽性者の40才の男子は既往症はないが、15才ころ旧制農林学校(現農林高校)時代、現在も有病地である伊勢町に通学し、農業実習をなしており、又21才のころ応召して、南支広東省中山県附近に2ヶ月間駐屯しており、これら何れかの機会に軽度感染したものと思はれ、検便及び肝機能検査にて異常は認められなかつた。このことについては西八代郡下部町下磯(無病地)の40才の男子が、十二指腸潰瘍のため某学病院にて手術を受け、その際肝肥大ありて、肝組織標大本にて日住卵を発見したが、本人は生来本県有病地には一度も農事の手伝いをせず、更に詳しく問診により、24才のころ、中支漢口附近(現在湖北省漢口)に1年間駐屯した際罹患したのではないかと思はれる。数年前まで中共における本病有病地の住民は一億、罹患者一千万人と推定されていることからみて、二次大戦中中共にて本病に罹患した日本人はかなり全国に散在しているのではないかと想像される。

尚成人の御坂町八千蔵部落は、以前から貝の棲息が少い部落であるため、陽性者が低率であつたものと考えられる。

皮内反応陽性、疑陽性者の検便については、小学校陽性者中虫卵陽性率は6.42%、中学校は11.44%、高等学校は10.36%、成人は5.15%であり、疑陽性者には中学校において0.63%に検出され、他は検出されなかつた。特に、双葉東小学校、八田中学校25.0%、21.3%とかなり高率の虫卵陽性者をみた。何れも、現在尚多数の貝棲息地が虫卵陽性率の高率を示している。成人については、一村のみであるが、この村は、かつては多数の貝棲息地あつたが、現在は極めて少数となつていたので、双葉、八田の如き濃厚な町村の成人は、相当高率であると想像される。故に皮内反応陽性者の高率、且つ、虫卵陽性者の高率の町村にあつては、重点的に、成人にも同様の方法で患者の発見につとめねばならぬと考える。

日住既往者と皮内反応、検便との関係については、現今の日住病の診断の虫体の生死に関しては、虫卵が糞便中より検出されれば、もちろんその診断は確実である。岡部氏による尿沈降反応も集団的に実施するには、未だ難点がある。又本病の症状からみて、非常に軽症感染が多く、本病特有の症状を呈するものはほとんどみられないので、医師は虫卵を検出されなくても、臨床診断によつて、本病と決定して、アンチモン剤の治療をなすこともあり得ると考えるので、既往症あると称する者の21.5%は、皮内反応陰性であつた。陽性が陰転することについては、虫体の死滅の経過年数等について今後の研究にまたねばならない。一般の本病の関心の程度からみて、再感染のあることは、知っているが、自覚症状の軽度から、既往があることにより、検便を実施しない傾向があると思はれる。高校生において、既往者中より13名の虫卵陽性者をみたことは、既往のある成人は尚更濃厚な感染の機会に恵まれているものが多いと思はれるので、再三検便による診断を受ける必要があると思はれる。又既往症なく、虫卵検出されたものは19名に及んでいる

ことも、皮内反応による抽出、検便が極めて必要なことを証明しており、当校において、34年度は457名中虫卵陽性者は5名であった。又、八田中学校においても前年度は1名も検出されていないが、同様の方法にて32名の虫卵陽性者を検出した。少数例虫卵が検出された学校においてもこの様な状態であった。

農林高校は有病地各地区より登校しており、皮内反応の分布状況を調査したが、県分布の濃度によつて陽性者は高率を示している。虫卵陽性者も同様な傾向にある。八田、双葉中学の部落別に調査したが、同様な傾向にあつたので、今后は重点的に患者の発見につとめねばならぬと考える。

結 語

1. 山梨県有病地において、日住皮内反応を前年度に続いて、集団的に18358名、無病地113名に実施した。
2. 小学校学童は、739/10441 (7.08%)、中学校生

徒は 1040/6174 (16.85%)、高等学校生徒は 393/876 (44.86%)、成人は683/867 (78.78%)、無病地の成人 1/113 (0.89%) の陽性率を示した。

3. 陽性者群の検便により、日住卵を141/1545 (9.13%)、疑陽性者群は1/467 (0.21%) に検出した。

4. 今后は、更に行政的に、学童、生徒の皮内反応陽性率の高い学校、又はその陽性者の高率の部落の成人を重点的に、本反応による本病患者の抽出、検便を実施すべきであると考えらる。

主 要 文 献

1) 大田秀浄 (1959): 日本住血吸虫症と日本住血吸虫皮内反応について、山梨県立医学研究所報, 2号, 71~72.

2) 大田秀浄・土屋庄・渡辺照代 (1960): 山梨県有病地の日本住血吸虫皮内反応の実施成績、山梨県立衛生研究所報, 3号, 42~50.

5. 山梨県下の日本住血吸虫病有病地における

皮膚炎の調査 第1報

飯 島 利 彦

日本住血吸虫 *cercaria* の感染に際して往々にして皮膚炎の生ずることは早くから知られている。皮膚炎の原因は唯に日本住血吸虫の感染のみならず、例えば鉤虫の仔虫の感染、昆虫の刺咬あるいは土中の化学物質によるアレルギー等がその原因となり得る。極端の例としては田部ら (1949) は山梨県下の日本住血吸虫病有病地住民の皮膚炎の大部分は *Gigantobirharzia struniae* の *cercaria* の侵襲に依ると報じている。

筆者は当該虫病有病地内住民の皮膚炎の原因が、何に依るものであるかを分析する目的で住民の皮膚炎の発生状況、有病地内における刺咬性昆虫の分布、*Gigantobirhartia struniae* の鳥類に対する寄生状況並にこれが中間宿主 *Segmentina nitidella* の分布及びこれに対する *G. struniae* の寄生率の調査を実施中であるが、住民の皮膚炎の発生状況を第1報として報告する。

調 査 方 法

調査は山梨県下の日本住血吸虫病有病地のうち、北巨摩郡双葉町、中巨摩郡八田村、西八代郡三珠町、東八代郡石和町及び八代町の5町村と、これが対照として同病無病地町村のうち南巨摩郡増穂町及び山梨市上栗原の計7ヶ市町村を選び実施した。調査に当つては各町村200

戸を無作為抽出し、その家族構成、耕作地面積、就労日数、皮膚炎の発症者及びこれが発生の年令、発生の時期発生部位、刺傷及び疼痛の有無、罹患場所及び全治に要した日数を記入すべき調査用紙を配布し記入せしめた。又、皮膚炎を発するに至らずとも甚だしいかゆみを感じた場合も前記の形式に則り報告せしめることとした。

尚各調査項目における調査方法の詳細は必要に応じその項目の冒頭において記することとする。

調査成績及び考按

1. 皮膚炎陽性者について

調査は上述7ヶ市町村の1200世帯を対象に行われたがその回収は922世帯、対象人員は5,234名であった。これらの調査成績は第1表に示すとおりであるが、922世帯対象人員5,234名のうち既陽性者は640名 (12.23%) であつた。このうち対照たる増穂町にあつては603名中25名 (4.13%)、山梨市で413名中18名 (4.36%)、の陽性者が認められた。これに対し有病地内では三珠町は1,126名に対する57名 (5.06%) で最低を示し、八田村は604名中153名 (25.33%) で最高を示し双葉町の583名中136名 (23.33%) が之に次いだ。